

相良村立相良南小学校



学校だより

校訓： やさしく かしこく たくましく

5月号-2

令和2年5月29日(金)

発行者 校長 立道一則

児童数：185

PTA会員世帯数：131

いよいよ学校再開！！でも油断は禁物！

長く続いた臨時休業も終わり、来週6月1日(月)から学校を再開することになりました。これまで保護者の皆様にはお子様への対応等大変お世話になりました。

5月末までは、子どもたちの体と心を徐々に慣らし生活リズムを取り戻すことを大きな目標として取り組んできました。来週から学校が再開しても、少しずつ学校の滞在時間を長くしてスムーズに学校生活をスタートできるように配慮していく予定です。

また、緊急事態宣言が解除され、学校が再開されても完全に新型コロナウイルス感染症が終息したわけではありません。相変わらず予断を許さない状態が続くと予想されますので学校でも感染防止のため以下のような取組を引き続き行っていく予定です。保護者の皆様にもこれからも引き続きお子様の対応等ご負担をおかけすることと思いますが、どうぞご理解・ご協力のほどよろしくお願ひします。

時間帯等	感染防止対策（配慮事項）等
始業まで	<ul style="list-style-type: none"> ○教室棟の窓の開放（換気） ○「健康観察表」のチェック及び再検 ○マスク着用の促し（登校時も） ○手洗い・うがい・顔洗いの促し（その後入室）
朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の確実な実施（健康状態の把握）
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ○使用教室は常時換気（特別教室も） ○エアコン使用時は上部の窓を開放 ○「三密」状態をできるだけ回避
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○手洗い・うがい ○声の大きさ ○「三密」状態の回避
掃除時間	<ul style="list-style-type: none"> ○声の大きさ ○終了後は丁寧な手洗い・うがい
給食	<ul style="list-style-type: none"> ○手洗い・うがいの確実な実施 ○給食当番はアルコール消毒 ○待つ児童は静かに待機 ○給食室への移動は時間差 ○配膳はできるだけ職員 ○同じ方向を向いて食事
昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ○雨の日の体育館使用は担任同伴 ○図書室が密になる場合は入室制限 ※その他、休み時間と同様
放課後	<ul style="list-style-type: none"> ○使用した教室等の消毒清拭

換気をするモン

手を洗うモン

くっつかないモン

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課から熊本県教育庁県立学校教育局体育保健課長を通じて配布された布製マスクが届きましたので来週中に配付します。ご活用ください。

登校日の様子

5月は徐々に心と体を慣らしていくため合計6回登校しました。その時の様子をいくつかご紹介します。



体育の授業（50m走タイム測定の様子）
久しぶりの全力疾走だったのでは？



給食の時間の様子 配膳も職員総出でしました。調理場の方にもお手伝いいただきました。



朝のボランティア活動の様子 草取りをする子が多い中刈った草を集めていると「校長先生手伝えることはないですか？」と声をかけてくれた5年生もいました。



子ども達が帰った後は、先生達で使用した机や教室の入り口のドア、ロッカー、蛇口などを消毒しました。

6月の主な行事予定（今後の状況によっては変更になることもあります。）

- 6月 2日（火）：全校体育 視力・聴力検査
- 6月 4日（木）：避難訓練（地震）
- 6月11日（木）プール掃除
- 6月18日（木）災害に伴う児童引渡し訓練
- 6月22日（月）耳鼻科健診
- 6月30日（火）眼科検診



四つ葉のクローバー（前号の続き…）

四つ葉のクローバーを見つけたらどうするか。
 ・親に見せる ・持ち帰り飾る ・押し葉にする
 ・写真にとる ・親や友達にあげる …
 などいろんな意見があると思います。私が一番印象に残っているのは、「そのままにしておく」という回答でした。理由を聞くと「見つけただけで私はとっても幸運です。もし、私が取ってしまったら他の人が見つけられません。そのままにしておいて誰かに見つけてもらいたいです。幸運を他の人にも分けてあげたいのです。」と言う答え。自分の事だけでなく他の人のことも考えられるなんてすばらしいな、と思ったものでした。

ところで、「ほら見て、四つ葉のクローバーを見つけたんだよ。」と自分の子どもさんが言ってきたとしたらどう対応しますか？その受け答え一つで子どもの育ちに影響が… 続きは次号で…。

優しい親子の姿から



休校中の事でした。課題等の受け渡しがあった日の夕方、ある保護者の方が「ちょっといいですか。」と呼び止められました。話をお伺いすると、「帰ろうとしていたら子猫の鳴き声がして、よく見るとカラスが子猫を突っついていたので追い払ったもののまだ狙っている様子です。」とのことでした。見に行くと体育館の屋根の上にカラスが一羽、そして体育館の傍らにブルブル震えながらミャーミャー泣いている子猫がいました。

私と教頭先生は、ひとまずカラスから狙われない安全な場所に移動させ牛乳を与えることにしました。それでも心配そうな保護者の方。後で（明日）動物病院へ連れて行ってみます、とのこと。捨て猫なのか、迷い猫なのか分からない小さな命を救ってあげたい思いがひしひしと伝わってきました。それと同時に、このような親御さんに育てられる子どもさんはきっと優しい子ども育つに違いない。幸せな子どもだなとも思いました。

次の日様子を見に行ってみると、もうそこに子猫の姿はありませんでした。

牛乳を飲み、元気になって何処かへ行き、元気に過ごしているといいです。